

広げよう！優良実践の輪！

～平成26年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 1

特別支援教育の視点を取り入れた 生徒指導・学習指導

岡山市立宇野小学校

1 はじめに

特別支援教育の整備は急速に進んでいますが、依然学校運営上の大きな課題であるとともに、その重要度は年々増しているように思います。困り感をもっている子どもを中心に置きながら、すべての子どもにとって大切な教育の在り方を確立し、全教職員で共有して実践することが、何より求められています。

そこで、本校では、特別支援教育の視点を取り入れた生徒指導や学習指導の充実を図り、「子ども一人一人を大切にしたい学校づくり」を目指しています。

2 授業改善

子どもの学校生活の大半は授業時間で占められています。授業中の「分かった」「できた」「認められた」実感が自己肯定感を育み、自己成長を促します。それは、生徒指導のねらいの一つでもあり、授業の場で学習指導や生徒指導が行われているわ



「視覚支援」と「見通し」のある授業の様子

けです。その際、特別支援教育の視点から授業を見直すことにより、すべての子どもが学びに参加し「分かった」「できた」と実感することができるようにしようとして取り組んでいるところです。そのため、「視覚支援」と「見通し」のある授業が進められるよう、授業の展開を記すホワイトボードと、残り時間が一目で分かるタイムタイマーを全学級へ配備し、活用しています。また、視覚的に理解を促進する資料なども工夫しています。



ホワイトボード・タイムタイマーを使った授業についての校内研修の様子

この他、ペア学習やグループ学習などを織り交ぜた学び合いの学習、一人一人のノートへできるだけたくさん丸付けをする丸付け法の活用などにより、少しでも「分かった」喜びが得られるよう、努めています。

3 校内支援・校内研修体制づくり

こうした授業改善がスムーズに行えるよう、公開授業による授業研究だけではなく、個別の児童支援や授業支援も行っています。例えば授業に集中できにくい子どもがいたら、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当、生徒指導主事、児童支援担当などが授業の様子を見て、チームで効果的な指導を模索したり、指導の在り方を担任にアドバイスしたりします。そうした取組は、ケー

4 おわりに

困り感をもっている子どもを基準に教育の在り方を考えると、様々な必要性が見えてきました。

特別支援学級の子どもたちの特性を交流学級の子どもたちに伝え、かわり方を学ばせることや、交流学級のスケジュールの伝達等々。

また、悪い点数のテストばかりで自信を失わせていたことも。同じ問題や似た問題のくりかえしで、できる喜びを味わわせるようにしました。学力テストの過去問題を解き、見通しをもたせることも然りです。

一方、知的好奇心が旺盛な子どもたちがリードする探究的な授業が、すべての子どもの学ぶ楽しさをつくることも忘れてはなりません。

そうした考え方や実践を共有しながら、一步一步歩んでいるところです。

(校長 河内 智美)

ように指導した。誰にも美しくなり成果がわか



靴そろえの徹底



黙々そうじの木曜日

3 地域・保護者との連携
○「顔合わせ、心合わせ、力合わせ」
「地域は学校の応援団」
これらは公民館長さんがいつも言われる象徴的な言葉である。毎朝の登校見守りや読み聞かせボランティア

4 おわりに
落ち着いた学習環境になってきているが、問題がないわけではない。日々目の前の子どもたちと向き合い、ささやかな実践を続けている。
学校現場はメンバーが毎年入れ替わる。その中で地域・保護者・学校がしっかりと手をつなぎ、これまで積み上げてきた校風を引き継ぐとともにさらに一歩でも前進したい。
(校長 金田 司)

1 はじめに
人として生きていくうえで、当たり前のことを当たり前に行うことができるようにしていくこと、すなわち、「生きる根っこを耕す」ことが基盤だと考え、全教職員で様々な取組を徹底して行ってきた。その主なねらいは、「当たり前のことを徹底し、学習する構えをつくる」ことである。

2 生徒指導に重点化した取組
○靴そろえの徹底

朝の気持ちよいスタートを切るために「靴そろえ」の徹底に取り組んだ。低学年にもできるように、靴箱に目印をつけ、そこに踵を合わせるように

りやすい。大いに誉め、自信を持たせることができ、教室のロッカーの整理整頓にもつながっていく。
○子どもが活躍できる場を工夫し、自己有用感を高める
「あいさつ運動」は運営委員会が中心となり、「ナイス」「もう少し」などの言葉を書き込んだ手作りのうちわを示しながら、声かけを行っていた。お昼の放送でよかった通学班を紹介し、やる気を高めている。
縦割り班を活用し、高学年の意識を高めていくことも重要である。毎日の縦割りそうじと「黙々そうじの

木曜日」の実践がその代表例である。リーダー会を随時開き、よかったことや反省点を出し合いながら、周囲の指示に頼らず、自ら考え行動する力を養っていく。人のために働き、役に立つ喜びを経験させることを大切にしている。これが自己有用感を高めることになると考えている。
○チーム院庄の取組
水泳学習の時期であった。職員朝礼で「子どもたちの更衣室の後片づけはできていますか。靴そろえと同じです。皆さんで気をつけましょう。」という声があがる。一事が万事。教職員は常に危機意識をもち、生徒指導にあたっている。
また「靴そろえ」や「黙々そうじの木曜日」など教職員からのアイデアをもとに実践化したことから、ぶれない指導を行うことができる。
その他、平素から保護者や地域とつながり、情報を共有し、危機回避のための早めの対策を考えている。何かトラブルがあった時にも、子ども自身に考えさせ、自分の言葉で説明させるように指導しており、同じ失敗を繰り返させないようにしている。

ア、民生児童委員との連絡会、地区ミニ懇談会、公民館行事参加等、地域と密着した取組が行われている。
これらの取組のおかげで、登校中のトラブルの減少、読書好き児童の増加等の効果が見られ、落ち着いた学習環境につながっている。
また、「踊り」「忠義桜」や和太鼓、書道、茶道・生け花、琴・尺八教室、昔遊び等、地域の方の授業を受け、本物（伝統文化）に触れることができている。子どもたちとの交流や地域への子どもたちの発表で、地域も元気になると喜んでもらっている。
先日、琴の先生に誉めていただいた。「今日の学習は素晴らしい出来でした。その予感がしていました。学習のはじめに、皆さんの靴がきれいにそろえられ、部屋への入室の仕方も静かに整然とできたからです。」
礼儀・作法や学習の構えを大事にすることは学習成果に生きてくると改めて感じた一コマである。

あいさつの励行や身の回りの整頓等を重視したきめ細かい生徒指導の徹底

津山市立院庄小学校

学力向上と心身の健康づくりの推進

吉備中央町立大和小学校

1 はじめに

本校は、岡山県の中央部に位置する小規模校である。学習塾等は少なく、共稼ぎ世帯が9割を超えるため、生活面・学習面の両面で課題があった。こうした状況の中で、平成25・26年度県指定の魅力ある授業づくり徹底事業及び町教育委員会指定研究校として、校長の強いリーダーシップのもとに、学校全体として徹底して学力向上と心身の健康づくりに取り組んだ。

2 取組の実際

(1) 授業力向上を目指して

落ち着いた学習環境づくりを進めるとともに、学力調査結果の分析から課題を

具体的に設定し、学校全体で授業改善に取り組んだ。特に算数科では、学級の実態に応じ



知識・理解及び技能を中心とした算数科の習得型授業

た三つの習得型学習展開イメージ（課題把握・見通し・問題解決・適応題・まとめ・練習問題）を作成し、知識・理解及び技能の習得に焦点をあてた授業づくりに取り組んだ。授業における教師の支援として、キーワードカードや解き方のモデルを示した板書やノート指導の工夫、机間指導では、赤ペンを持ち個を称揚する等個別指導を工夫した。「先生がほめてくれてうれしい。」「自信をもって発表することができた。」等、児童の学習意欲が向上し、授業を通して教師との信頼関係が深まり、学力向上につながった。

(2) 授業外の取組の充実

基礎基本の定着を図る朝学習（計

算タイム）と活用型の学力を身に付ける補充学習（パワーアップタイム）という、二つの目的を明確



地域のボランティアによる放課後学習教室

にした内容で取り組んだ。また、家庭学習習慣の定着のため、学級懇談において、家庭学習の手引きを配付するだけでなく活用の仕方まで詳細に説明し、保護者の理解のもとに確実に習慣づけができるよう工夫した。さらに、家庭と学校、地域が一体となり、地域連携として、公民館と連携した放課後学習教室・子ども教室を実施し、全児童100%の参加率となつている。

(3) 健康づくりの推進

学校保健委員会を中心として取り組んだ。大和っ子元気カードの取組により、早寝・早起き・朝ご飯など家庭での生活習慣の改善を図った。また、岡山教育事務所の指導を受け、親育ち応援学習プログラムを活用したワークショップを開催した。保護者が実態に合わせた自作のエピソード資料を作るなど、主体的に参加した。さらに、県教委提唱の夜間9時以降のスマホ制限にタイアップし、毎月ゼロのつく日（10日、20日、30日）は、

N O ス クリーニングと定められた。テレビやゲームを離れ、家族みんなで楽しく



保護者主体で行った学校保健委員会全体会（親育ち応援学習プログラム）

過ごすよう呼びかけるとともに、アンケートや学校保健委員会全体会の情報交換、ポスターコンクールにも取り組んだ。「家族でトランプをしたり、読書をしたり楽しみました。」「家族と楽しく過ごせてうれしかった。」等の反応があり、今後も継続して取り組んでいく。

3 成果

このような取組により、落ち着いた学習環境で授業が行われ、平成26年度全国学力・学習状況調査において国語科・算数科ともに全国平均を上回ることができた。N R T 学力検査においても、ほとんどの学年で全国平均を上回り、全ての学年で前年度より向上がみられた。また、むし歯治療率は、2年間続けて100%を達成した。（平成26年度岡山県学校保健推進学校表彰、岡山県頑張る学校優良実践校拝命、岡山県学校安全推進学校表彰）

4 今後の更なる取組の充実

今後は、国語科でも習得型授業改善に取り組み、学力の維持向上に努める。また、教室横の廊下（ワークスペース）にコンピュータを導入し、プリント学習を授業や補充学習で活用するなど、個に応じた学力の定着を一層図る予定である。さらには、本校の取組を町内に広げ、町教育研修所を中心とした町内一体的な取組を進めていきたい。

（校長 森寺 勝之）

トライアングルみまさかを基軸とした 生徒指導・授業改善の取組

美作市立美作中学校

1 はじめに

3年前に着任した私は、「落ち着いた学校づくり」に腐心された歴代校長のバトンを受け、学校再建と信頼回復にとつて最大の課題である学力向上に向き合いました。明確な指針のもと「チームみまさか」が丸となって危機意識を共有し、規範意識の確立と授業改善に着手したのです。「子どもが変われば、保護者は変わる」。このことが私たちを支えていました。

2 トライアングルみまさか

学力向上の基盤は「落ち着いた学習環境」であり、学校に秩序と落ち着きを生む第一歩は、学習規律と生活規律の確立です。本校区の美作第一小学校と美作北小学校との3校小中連携を『トライアングルみまさか』と名付けて、義務教育9年間を見通した教育実践を始めました。小学校低学年から発達段階に応じた学習と生活の約束を設定して取り組み、校区の学力分析も3校全教職員で共

通理解し、各校の授業改善や授業交流を進めることにしました。今では校内研修テーマも共通のものとなり、課題のメディア漬けにも協力して取り組むようになっていきます。このトライアングルは、幼稚園や校区内高校との連携へと広がり、保護者や地域ともつながっていききました。つながりはつながりを生み、学校の心強い応援団になっています。

3 学力をつける

本校の学力向上の最大の課題は、家庭学習の習慣形成です。一定量の家庭学習の課題を提示し、課題点検を徹底して完全提出を目指すなど、習慣形成への努力はたゆみなく続けられています。

家庭学習を確かなものにする基盤は授業。あくまで「授業完結主義を貫く」覚悟で「授業が勝負」の学力定着を徹底しています。全教育活動に「書く」活動を取り入れ、学力と自己表現力のつく授業改善に励み、ICT教育推進も工夫しています。

また、

地域の方々で構成されたイキイキ応援団に放課後学習支援をしてい

ただき、3年後期に受験対策として数学の放課後教室を設けています。

4 活力のある学校へ

学校が落ち着きを取り戻し、授業に真剣に立ち向かう教員と生徒のつながりができていくと、生徒たちの活力のある姿が見えてきました。「美作中学校に來ないと味わえない学年・学校行事を創り上げよう。」と教員や生徒が呼びかける場面も多くなりました。

学校再生の一步として始めた「あいきつ運動」は地域にも広がり、湯郷温泉の宿泊客の方から「感銘を受けた」とお葉書を頂戴したこともあります。

3年前の生徒会長は体育祭で「全力は美しい」と高らかに呼びかけ、グラウンドに全力の美を花咲かせました。昨年度の生徒会長も堂々と正



イキイキ応援団が支える放課後教室

論を述べ、誰よりも大きな声で全校生徒をリードしました。控えめな生徒でしたが、「役が人をつくる」と言われるように、まさに生徒会長という職責が彼の成長を促し、大きな力を生みました。

こうした生徒たちの姿があるのは、教職員の力が生きている証です。生徒の主体性は、表に出ない教職員の下支え、綿密に計画された指導の手立ての成果です。



全力は美しい！全校で美中そーらん

5 おわりに

本校の課題はいまだ山積、「誇りのもてる学校づくり」は道半ば。しかし、目指す方向性を明らかにすれば「明けない夜はない」。一体感に支えられた課題克服の道のりが、学校に自信と誇りを取り戻す日々です。

(校長 西村 睦美)

地域協働学校、協同学習の取組による 生徒指導・学習指導の推進

(岡輝中学校区・岡南小学校・清輝小学校)

1 はじめに

このたび、岡輝中学校区が、「平成26年度頑張る学校応援事業優良実践校」に選ばれました。私は、この選定に際して、

- ・岡輝中学校区として選ばれたこと
- ・岡輝中学校区の長年の取組が認められたこと

を本当に嬉しく思います。なぜなら、地域の皆様方、保護者の皆様方、子どもたち、教職員の長年の「つながり」が評価されたと思うからです。

そこで、長年にわたる取組を振り返ってみたいと思います。

2 2本の柱

現在の岡輝中学校区には、次の2本の柱、

- ☆学区でつなぐ、地域協働学校
- ☆みんなでつなぐ、協同学習

があります。この根底にあるのは、学校園を「地域の中にある学校園」と捉える考え方で、学区6校園(岡輝中・清輝小・岡南小・岡南幼・清輝保・岡南保)で「0歳から15歳までの責任のある保育・教育(保・幼・小・中の連携)の実践を通して、学校園・地域・家庭が一体となつて「子どもたちが愛されていると実感できる学校づくり・地域づくり」を目指しています。

また、「協同学習」に関しては、岡輝中が平成19年度から、学区2小学校では平成20年度から、取り組んでいます。すでに保育園・幼稚園では、協同学習的な考えを基盤にした取組が行われており、「連携から一貫へ」の道筋ができています。このことにより、

「生徒指導の原点は授業である」という新たなビジョンを持つて、学区全体で学習活動を進めています。

3 「岡輝地区流学校改革」の歩み

(1) 第一期「荒れの克服」
平成10年～13年

「学校丸抱えの生徒指導から地域全体で考える生徒指導に」

これまで、学校丸抱えで生徒指導を続けてきたため、地域の人々も学校への協力方法がわかりませんでした。そこで、まず、保護者や地域の方々も参加するイベントを開催し、学校のありのままの姿を見てもらおうと考えました。イベントの実施にあたっては、地域の協力をあおぎ、教師や保護者らで結成した組織が運営の中心となりました。これには、PTAのOBの協力もあり、この流れは、現在も続いています。

イベントに参加することで、学校の情報は地域にも自然と出て行きます。

当初は「学校が荒れるのは、教師の指導力の問題」と考えていた人たちにも、生徒や教師の頑張りや大変さが理解してもらえるようになりました。イベントの中には「みどりの林檎」「イメーリアップ岡輝!」「つなぐれ岡輝!」「サマークリーン作戦」等、地域・学校園が一体となった活動も数多くあります。



「つなぐれ岡輝」 岡山南高校吹奏楽部の演奏による参加者全員の合唱

(2) 第二期「学校運営の組織化」
平成14年～平成18年

「文部科学省指定研究・岡山市地域協働学校指定を核として」

多くの学校がそうであるように、研究指定については「生徒指導に手一杯で、研究まではとても無理」という考えでした。しかし、その発想を転換し、「研究指定をきっかけに学校を変える」方針に変更しました。

安心できる学校園生活や不登校と学力不振への克服を中心課題として取組を進め、現在は、毎月1回(8月を除く)「学校運営協議会」を開催しています。

また、この過程で「シニアスクール」「地域情報紙『ちくたく』」が誕生し、学校園運営の大きな力となっています。

(3) 第三期「授業で学校を変える」
平成19年

「協同学習の推進」個を大切にし、認め合い、学び合う」

部活動や学校行事の充実等、荒れをなくすために様々な取組をしましたが、根本的な解決にはなりませんでした。低学力・不登校・授業に入れない生徒たち…。生徒指導を考えたい場合、大きな課題となるのがこれらの課題です。そんな中、出会ったのが「協同学習」です。「協同学習」を推進していくために、校内研修や先進校の視察の充実はもちろん、

- ・6校園夏期合同研修会
- ・市内中学校4校合同研修会

を実施し、広がりや充実を目指しています。また、「目の前にいない児童・生徒は指導できない」という考え方で、児童・生徒を学校・教室に受け入れる方針をとり、現在、不登校や授業に入れない児童・生徒の数は減少傾向にあります。

4 おわりに

このように学校改革を進めている岡輝中学校区ですが、学校園では、「低学力に対する学力補充」「家庭での生活習慣・学習習慣の改善」「人間関係の構築の苦手な子どもたち」等々、多くの課題を抱えています。これらの課題に日々悩みながら、それでも「つながること」で、一歩ずつ、改革の歩みを進めていきたいと考えています。これからも前に、一歩ずつ前に!

(岡輝中学校長 片山 安基夫)